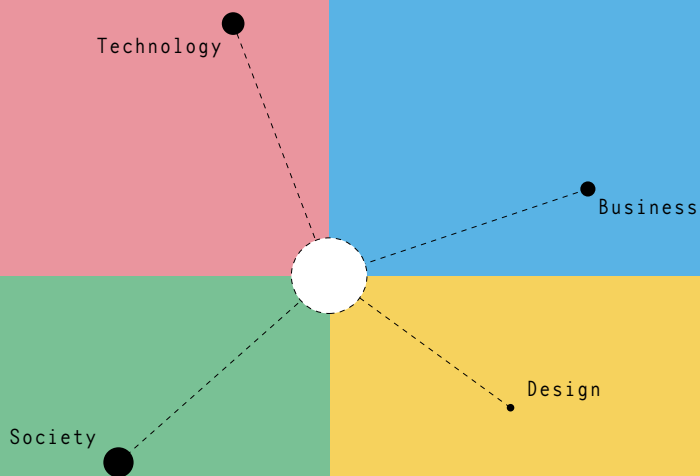


後藤滋樹

ごとう・しげき: 早稲田大学 理
工学部 情報学科教授。MINC
理事、APAN副議長などアジ
ア太平洋のインターネット界で
活躍している。

goto@goto.info.waseda.ac.jp



最初か最後か

横綱は最後に登場

私は、学会や各種団体のイベントの企画をよく担当する。講演会のプログラムでは、講師の先生方に失礼のないように講演の順番を決めなくてはならない。

日本では順番が後ろのほうが偉い。落語では順番が早いのを前座と言い、真打ちは最後に登場する。相撲でも横綱の取組みは最後になる。紅白歌合戦でもトリというのは最後に出演する歌手のことだ。トリを取るの是一座の中で一番偉い歌手と決まっている。

イベント担当者としての私の経験から言うと、真打ちを最後にするのは十分な理由がある。学会では初日の最初の時間帯には、参加者が少ない。展示会などでも同じ傾向がある。初日は参観者が少ない。次第に盛り上がってきて、最終日には多くの人が集まる。ちょうど相撲の千秋楽のような雰囲気になる。

学会では、偉い先生に初日の早い時間を割り当ててはいけない。「僕は前座だね」などと婉曲に文句を言われてしまう。展示会にも同様な注意がある。3日間にわたる展示会で、初日からパンフレットをどんどん配ると、最終日には売り切れてしまう恐れがある。最後の盛り上がり前に備える必要がある。

基調講演は初日の最初

アメリカ式のイベントでは、順番が逆になる。招待講演者に基調講演を頼むとすれば、初日の最初の時間帯がベストだ。実際に参加者の数は初日が多い。

展示会などでも同じ傾向があるようだ。人気のある展示会に行くと初日に開場を待つ人が大勢集まっている。会場の入り口が開くと同時にどっと入場する。日本人の私にはちょっと違和感を感じさせる風景だ。アメリカ式の展示会場でパンフレットを配るならば、参加者が多いうちにどんどん配るべし。さもないと在庫が残ってしまう。

日本式でもアメリカ式の講演の順序でも、それぞれの参加者の傾向に沿っているのだから、いずれも合理的だ。ただし、逆に組み合わせると悲劇を招く場合がある。日本の会議で、アメリカからの来賓が演説するから最初がよかろうと計画したものの、初日の最初の時間帯には聴衆が少なく冷や汗をかいた経験がある。逆にアメリカ式の国際会議の閉幕後に、別の会合を併設したところ、参加者が少なくガッカリしたこともある。

電子メールはアメリカ式

順番に注目すると、実は文章についても、同じような日米比較ができる。英語の文章では、肝心なことをなるべく最初のほうに書く。日本語では、まず周囲の状況や背景を記述する。次第に本論に絞り込んでいき、最後にクライマックスとなる。

英語の論文では、各パラグラフの先頭の文を抜き出して集めれば、それを読むだけで概要がわかるという(参考文献)。それはパラグラフの先頭に肝心なことが書いてあるからだ。

手紙の書き方も日米の比較ができる。日本の古典的な手紙を書くのは面倒だ。時候の挨拶を適切に選ばなくてはならない。単刀直入に話題に入れないのである。ただし、現代の日本では、電子メールの普及とともに英語式の手紙文が増えているように感じる。

電子メールで前置きが長い文章は、相手が正しく読んでくれない恐れがある。1日に何百通もメールを受信する人は、パッと読んでメールを分類してフォルダーに移動したり、すぐに削除したりする。本題が最初に書いてないと、後ろのほうは読まないかもしれない。

住所の表示の順序

手紙に関して言えば、住所を表示する順番が日米で逆になる。日本では広い範囲から先に書く。東京都 新宿区 大久保 3 4 1ときて、さらに早稲田大学の中の理工学部、その中の情報学科と書く。アメリカ式では順番がまったく逆になる。個人の名前の順序も同様だ。後藤家の滋樹という人だ。

論文の文章でも、住所でも、名前でも、日本式では最初に広い範囲を記述し、次第に絞り込む。つまり順番の最後のほうに真打ちが登場することになる。

インターネットのドメイン名を住所、あるいは名前のようなものと考えれば、順番はアメリカ式になっている。たとえば、waseda.ac.jpでは日本を表すjpが最後にある。ただし歴史的に言うと、英国でukドメインが導入された初期のころには、なぜか英国だけ順番が今は逆だったことがある。おもしろいことに英国のドメイン名が日本式の順番だった。

参考文献 木下是雄『理科系の作文技術』中公新書 624



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp